

検印

第3学年2組 社会科（公民的分野） 学習指導案

令和元年11月22日（金）第5校時

1 単元名 公民的分野 B（1）「市場の働きと経済」

2 単元について

（1）単元観

本単元は、学習指導要領上、公民的分野 B（1）の位置付けで設定したものである。この単元では、内容項目 A（2）「現代社会をとらえる枠組み」で学習した、対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目したり、それぞれ関連付けたりしながら、経済活動の意義について、消費生活を中心に理解できるようにするとともに、個人や企業の経済活動における役割や責任、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、考察し、表現できるようにすることを目的としている。

経済活動を個人単位の活動として見た場合、それは「家計」という枠組みで考えることができる。学習指導要領解説社会編の中で、経済活動とは、「一般的に人々が求める財やサービスを生産し、これらを消費すること」とあるが、これを家計の単位で考えると、限られた収入において、収入と支出のバランスを考え、各支出項目への配分をどれだけ行うかということに当てはまる。

しかしながら、現代社会においては、財やサービスの購入については貨幣を通して行われるだけでなく、各種カードやスマートフォンを媒体としたクレジット払いや電子マネーなどのキャッシュレス決済も多く見られる。そのような中で、クレジットカードによるローン返済の停滞や、インターネット上でのキャッシュレス決済におけるトラブルなどが多発している。そのため、様々な財やサービスの購入・消費を通して豊かな生活を送ることを理解させるとともに、それらを多面的・多角的に考察することで、現代社会における消費生活の注意点を意識しながら、消費生活の向上を目指すとともに経済に関する課題を解決しようとする態度を養っていきたい。

（2）生徒観

本学級は、意欲的に学習に取り組んだり、積極的に活動をしたりすることができる生徒が多くいる一方で、学習に対する意欲が低く、個別の支援を要する生徒も在籍している。社会科に対しては、実施したアンケート調査等から、苦手意識をもっていることを読み取ることができる。苦手意識をもつ生徒は、その理由を記述する中で、「覚える」という語句を多く書いていた。一方で、社会科について、特に歴史的分野に好意的なイメージをもっている生徒からは「時代の流れに関心をもてる」という回答が見られたほか、公民的分野の授業では、課題を追求したり解決したりする活動の中では、意欲性や積極性をうかがい知ることができる。これらのことから、授業における課題設定によって、意欲的な活動につなげていくことができると考えられる。

また、社会科の授業の中では、ほぼ全ての授業時間において4人組のグループ学習を取り入れている。他者との対話に苦手意識をもつ生徒も一定数在籍しているが、わからない課題については、周囲の友達に確認をしたり、助言を求めたりする素地

が育ってきている。

(3) 指導観

中学校社会科の授業では、小学校と比べてより多くの重要語句や人名を学習するようになっている。そのため、生徒はそれを「覚えなければならない」という意識が強くなり、社会科に苦手意識をもつようになる。

本単元「市場の働きと経済」においては、身近な消費生活を中心に経済活動の意義についての理解を深めるとともに、生徒の意欲的な取組を継続できるよう、適切な課題設定ができるよう配慮して学習計画を立てる。

また、グループ活動における課題を追究したり解決したりする活動の中では、将来的なことも踏まえ、社会科の授業の中で、自らの考えを伝え、他者の考えから学ぶ機会も積極的に取り入れていくことで、生徒の思考・判断・表現力の向上を図っていく。

(4) 道徳教育（研究主題）との関わり

**研究主題「生徒一人一人のよさを伸ばし、豊かな心を育む道徳教育の実践」
～道徳教育による全校的な指導体制の確立（道徳の教科化への道筋）～**

＜道徳教育上の視点 —特別の教科 道徳との関連—＞

B 相互理解、寛容 **C 社会参画、公共の精神**

本単元では主に身近な消費生活を中心に経済活動の意義について学習をする。その過程で、経済活動とは、人々が財やサービスを生産・消費することで生活を成り立たせていることだと学ぶが、個人の経済活動の役割や責任が全体の市場経済に結び付くことから、生徒の社会参画の意識と自覚を高めていく。

また、4人組の学習を取り入れ、経済活動における自分とは異なる他者の考えを聞く機会をもつことで、色々なものの見方や考え方があることを理解し、自らを高めていくことにつなげていく。

以上のことから豊かな心を育む道徳教育に迫っていく。

3 単元目標

- ・個人の経済活動について意欲的に追及させる。（関心・意欲・態度）
- ・経済活動にかかわる課題を見出し、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現させる。（思考・判断・表現）
- ・経済活動の意義が人間の生活の維持向上にあり、経済は生活のために他ならないことを理解させる。（知識・理解）

4 指導と評価の計画

時間	指導計画	評価計画
1	○コンビニエンスストアの経営者になってみよう	・コンビニエンスストアの立地について考えるシミュレーションを通して、経済に対する関心を高めている。（関心・意欲・態度） ・コンビニエンスストアの立地について、経営者と消費者の立場から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。（思考・判断・表現）

2 (本時)	○私たちの消費生活 ・私たちの生活と経済活動 ・商品の選択 ・家計の収入と支出 ・より良い消費生活	・家計シミュレーションの活動をする中で、消費生活について考えようとする態度が見られる。 (関心・意欲・態度) ・消費者は限られた時間と収入をもとに商品を選択していることや、家計における収入と支出、貯蓄の関係などについて多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。(思考・判断・表現)
3	○契約と消費生活 ・消費者主権 ・消費生活と契約 ・消費者問題の発生	・消費生活が契約によって成り立っていることを、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。(思考・判断・表現) ・消費者問題の概要について理解している。(知識・理解)
4	○消費者の権利を守るために ・消費者の権利 ・消費者問題への行政の対応 ・自立した消費者	・消費者の権利とその保護の取組について、多面的・多角的に考察している。(思考・判断・表現) ・消費者の権利や消費者行政の役割について理解し、その知識を身に付けている。(知識・理解)
5	○消費生活を支える流通 ・商品が手元に届くまで ・商業の役割 ・流通の合理化	・身近な商品の流通経路について、積極的に調べている。 (関心・意欲・態度) ・流通の役割や流通の合理化の取組について、生産者と消費者の立場から多面的・多角的に考察している。 (思考・判断・表現)

5 本時の学習活動 (2 / 5)

(1) 本時の目標

○家計における収入と支出、貯蓄の関係などについて多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。

(2) 本時の展開

	学習内容 ・学習活動 ☆研修に関わる学習活動	指導上の留意点 評 評価	資料等
導入	1 本時の授業の流れを確認し、活動に関する説明を聞く。	・活動時間確保のため、時間をかけ過ぎない。	カード資料集
	シミュレーションを通して、複数の視点から家計について考えよう。		
展開	2 20代の人生をマネープランゲームを用いて体験する。 ・役割分担を決める。 A 班長 B カード選択係 C 記録・計算係 D 思い出係 ・20代のライフイベントを体験する。(「収入」「支出」)	・班の中で役割を分担し、主体的に活動へ参加させる。 ・経済的に自立するためには、「就職」が必要であることを意識させる。 ・代表的な職業を付属の資料集で確認させる。	PC プロジェクタースクリーン ワークシート

「年収入」
 ①400 万円 ②300 万円
 ③250 万円
 「年支出」
 ①150 万円 ②100 万円
 ③80 万円（住居費は別）

☆自動車の購入について話し合
 う。

「自動車購入」
 ①いない ②買う
 （車種は班で選択）
 A：400 万円 B：200 万円
 C：100 万円

・20 代のまとめを行う。
 （貯蓄額と思い出ポイントを計
 算する。）

3 30 代の人生をマネープラン
 ゲームを用いて体験する。

・30 代のライフイベントを体験
 する。「結婚」「子ども」

☆住宅の購入について話し合う。

「結婚」①する（働くのは1人）
 ②する（共働き）
 ③しない
 「子ども」①いない ②1人
 ③2人 ④3人
 「住居」 ①賃貸
 ②マンション購入
 ③一戸建て購入

☆「保険」「イベント・アクシデ
 ント」のカードを選択する。

「保険」①入る ②入らない
 「イベント・アクシデント」
 株価急騰、病気、事故など17
 枚のカードから2枚選択する。

・30 代のまとめを行う。
 （貯蓄額と思い出ポイントを計
 算する。）

・支出を計算する際、教科書で消費生
 活の代表的な内容を確認させる。
 ・非消費支出の存在を知らせる。

・自動車の必要性や価格帯について
 班で話し合いをすることで、班員の価
 値観に触れられる機会を設ける。

・記録・計算係と思い出係を中心に計
 算と記録をさせる。

・資料集で、人生の三大資金「住宅資
 金」「教育資金」「老後資金」と結婚
 資金について確認させる。

・住宅ローンについては、支払いの手
 段の1つとして伝え、深入りしな
 い。

・貯蓄額によって、選択の幅が狭まる
 ことを認識させる。

・人生のリスクマネジメントについて
 班で話し合いをし、保険の加入につい
 て決定させる。

・選択した2枚以外のカードを確認さ
 せ、生活の中で様々なリスクがある
 ことに気付かせる。

・記録・計算係と思い出係を中心に計
 算と記録をさせる。

終末 4 各班のシミュレーション結
 果について発表する。

・板書計画のようにまとめ、各班の結
 果が目視できる形にまとめる。
 ・結果に違いがある班をサンプルとし

<p>5 各班で考察を行い、ワークシートにまとめる。</p> <p>・「収入」「支出」「貯蓄」「思い出」「保険」などの観点から考察をする。</p>	<p>て抽出し、発表をさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評 シミュレーションを通して、家計について多面的・多角的に思考し、考えたことを適切に表現している。</p> <p><Bの生徒への手立て></p> <p>○収入と支出や記入している事柄とは別の観点から、考察をするように促す。</p> <p><Cの生徒への手立て></p> <p>○収入と支出のバランスについて記述をするように助言する。</p> </div>
---	--

(3) 板書計画 (例)

	20代			30代						結果	
	収入	支出	自動車	結婚	子ども	住宅	自動車	保険	イベント アポイント	貯蓄(万円)	思い出
1班	①	③	なし	する 共働き	いな い	賃貸 お手頃	なし	入ら ない	株 急騰	5850	1
2班											
3班	①	①	豪華	しない	いな い	豪華 マンション	豪華	入る	自分 を磨く	0	14
4班											
5班											
6班	③	①	豪華	する	3人	賃貸 豪華	豪華	入る	英才 教育	-7200	33
7班											
8班	①	②	標準	しない	いな い	一戸 建て	標準	入る	自分 を磨く	1700	11

※結果に違いが見られる班のみ、結果を書き出す。